

第2期 活動報告書

団体名称 里山笑楽校（非営利活動団体）

事業期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

主な活動 山王寺棚田保全活動（農産物栽培・各種交流イベント）

1. 活動の目的

本活動の目的は、都市と農村、上流域と下流域の交流によって経済と環境の両面において持続可能な地域モデルを創り上げる事である。山王寺棚田は、斐伊川水系の上流域に位置し簸川平野、宍道湖、中海の環境に影響を与えている。山王寺棚田をモデル地域として、下流域の都市住民に棚田保全活動に参加してもらう事で地域の活性化を促す。そして、農薬・化学肥料を使わない農業を実施する事で宍道湖・中海の環境保全を目指す。基本は「笑って・楽しく・学ぶ」ことである。

2. 活動の実施状況

1) 「冒険の森てんば」プロジェクトスタート

空き家を借り受けて①「森のようちえん」②「森のオフィス」③「研修会場」として活用するプロジェクトである。7月10日にオープニングイベントを開催したところ地元の人を含めて250名の参加があった。その後各種イベントを開催した。企業のサテライトオフィスや研修・合宿会場としての利用を目指している。

2) 綿・真菰栽培

①綿栽培

綿栽培は、昨年同様松江市公民館中央ブロックとの協働事業として実施した。事前に松江市公民館の有志たちにより耕作放棄地の開拓を行い、地元山王寺棚田実行委員会の協力のもと圃場の整備を行った。都市住民が山間地の圃場で播種して育て収穫まで行う事の意義は極めて大きい。

②真菰栽培

マコモの栽培に着手して2年目となる。今年度は松江農林も参加して「てんば」の耕作放棄された田んぼで240株の栽培を行った。

2) 豆腐づくり体験研修

昨年同様に栽培した大豆を活用して味噌作り体験教室を実施した。25名の参加者によって楽しいイベントとなった。

3) 綿の糸紡ぎ体験教室

城西公民館にて、育てた綿を利用して糸紡ぎイベントを行ったところ 12 名の参加があり綿への関心が深まった。綿は、本年度の中心的活動であったので糸を紡いで作品づくりまでの一連の企画が実施できた。

3. 成果と課題

「冒険の森てんば」の開設により都市と農村の交流イベントが出来るようになった。田舎ツーリズムの施設として登録も出来たことで食事・宿泊も可能となった。また、てんばの管理人として雲南市の情熱人の採択を受けた永瀬紀之氏を配置できたので今後の活用が期待できる。

「まこも」の栽培面積を広げている。今後、島根の特産品として育てる「出雲国まこもの会」にも積極的に参加をするがマーケットを広げるにはパワー（資金）が必要となる。

4. 寄付者一覧

寄付者	金額
多久和厚（里山暮らし研究所）	50,000 円

5. 助成事業一覽

事業名	事業額	助成額	用途
想いをカタチに（雲南市） （はじめの一步事業）	270,357 円	169,000 円	まこも風土記出版準備、 棚田保全活動
しまね社会貢献基金 イトハラ水産 すし弁慶	615,434 円	570,000 円	冒険の森てんばの施設整備
しまね社会貢献基金 ワコムアイティ	31,274 円	31,274 円	WiFi の整備